

ホースロギング（馬搬）で民国連携

【北信署】11月16日、「アファンの森」にて、ホースロギング（馬による木材の搬出）が実施されました。

平成23年8月、アファンの森で行われた「国際森林年第3回国内委員会」において、天野礼子委員から「アファンの森と国有林と地域が連携した新たな森づくりや、ホースロギング（馬搬）などのモデル的な取組」が提案されました。

翌年3月、隣接する霊仙寺山国有林1037林班を一般財団法人c・w・ニコル・アファンの森財団と「社会貢献の森」（森林・林業再生モデル林）として森林整備活動に関する協定を締結、11月から国有林の間伐を実施し、馬搬により間伐材の搬出を行ったのが始まりです。

また、平成25年11月には「馬搬技術の伝承研修」が開催され、長野県の天然記念物に指定されている木曾馬も木曾町開田高原の木曾馬保存会から馬搬に参加していました。

今年度の馬搬は、協定した国有林に隣接するアファンの森、林齢46年生のカラマツ林で実施されましたが、これまで国有林をフィールドとして培ってきた技術が活かされており、まさに民国連携による森林整備といえます。

馬搬を指導しているのは、岩手県遠野市「遠野馬搬振興会」の岩間敬事務局長で、平成14年から馬搬に従事しているとのことでした。

岩間さんは、馬を復活させることが林業、農業など中山間地の衰退問題解決の糸口があると考え、森に優しい伝統的な日本の里地里山文化を継承するため、平成22年馬搬振興会を立ち上げて馬搬の普及に取り組んできたそうです。今は北海道、宮城、山形、福島、長野県等様々な地域で馬搬技術の指導に携わっています。岩間さんが馬搬を始めた頃は、日本でも馬方が3名しか残っていなかったようですが、現在は10名程に増えて来たとのことでした。当日も2名の研修生が岩間さん指導の下、馬搬を実施していました。

馬搬を行うには、日々の訓練が必要ですが、一番重要なのは人と馬との信頼関係で、馬の個性にもよりますが最低でも3年以上はかかるそうです。

この日活躍していた馬は、外国産の馬で名前は「サムライキング」。10歳の雄で、体重は約1トンあり最大牽引量は体重と同じ1トンだそうです。搬出距離にもよりますが、最大1日10立方メートル近くは搬出できるとのことです。

馬搬された間伐材は、テーブルや椅子などの家具に加工され、森から生まれた家具「horse Logging Furniture」として愛好家に注目されています。

今年度アファンの森では道産子の雪丸、茶々丸の2頭が加わり練習を重ね馬搬の技を磨いているところです。



間伐材を馬搬している様子